九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Sarcopenia is a risk factor for cardiovascular events experienced by patients with critical limb ischemia

松原, 裕

https://hdl.handle.net/2324/1806859

出版情報：九州大学, 2016, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

（別紙様式２）

氏　　名	松原　裕
論　文　名	Sarcopenia is a risk factor for cardiovascular events experienced by patients with critical limb ischemia
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　筒井　裕之 副　査　　九州大学　　教授　　萩原　明人 副　査　　九州大学　　教授　　北園　孝成

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

重症虚血肢患者の予後は不良であり、その死因として心血管疾患が特に頻度が高い。低握力は心血管イベントの危険因子であるとの報告があり、骨格筋減少症も同様に心血管イベントの危険因子である可能性がある。それ故、重症虚血肢患者において骨格筋減少症が心血管イベントの危険因子であると仮説をたてた。もしこの仮説が事実であり、適切な治療方法が明らかになれば、適切な心血管イベント予防のためのリスク管理によって、重症虚血肢患者の予後が改善する可能性がある。

九州大学病院消化器・総合外科で 2002 年 1 月から 2012 年 12 月に CT を撮影し血行再建術を施行した 114 名の重症虚血肢患者を対象とした。第 3 腰椎レベルの CT 断面像における骨格筋面積を測定し、男性で 114 ㎠未満、女性で 89.8 ㎠未満を骨格筋減少症であると定義した。臨床的背景、非心血管イベント発症生存率、術後 2 年以内の死亡、死因、骨格筋減少症に対して有効であった治療を検討した。

骨格筋減少症患者は 53 名（46.5%）に認められた。3 年非心血管イベント発症生存率は、骨格筋減少症患者で 43.1%、非骨格筋減少症患者で 91.2%であった（P＜0.01）。観察期間中、心血管疾患による死亡は、非骨格筋減少症患者で 4 例、骨格筋減少症患者で 15 例認められ（P＜0.01）、特に虚血性心疾患による死亡例は、非骨格筋減少症患者で 0 例、骨格筋減少症患者で 5 例であった（P＜0.05）。単剤抗血小板薬療法（ハザード比　0.46，95%信頼区間　0.24-0.82, P＜0.01）、スタチン（ハザード比　0.38，95%信頼区間　0.16-0.78, P＜0.01）は非心血管イベント発症生存率の改善に関わる独立した因子であった。骨格筋減少症患者において、3 年非心血管イベント発症生存率は、単剤抗血小板薬療法群で 75.3%、二剤併用抗血小板薬療法群で 21.1%、非抗血小板薬療法群で 29.5%であった（P＜0.01）。

以上の結果から、重症虚血肢患者において、骨格筋減少症は非心血管イベント発症生存率の危険因子であり、単剤抗血小板薬とスタチンがリスクを軽減していた。さらに、骨格筋減少症患者の非心血管イベント発症生存率を、単剤抗血小板薬療法は延長させたが、二剤併用抗血小板薬療法は延長させないことが示された。

以上の成績はこの方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったがいずれについても適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と判定した。